

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第34号 2014年3月

もくじ

環境保全シンポジウム報告	藤井 健史
「面白峡水力発電所」復活事業に関するバス研修及び視察報告	昆野 俊男
会員活動報告：エコ・クッキング講座の開催	林家カレー子
会員活動報告：東京都国分寺市環境シンポジウム講演	一條 美智子

環境保全シンポジウム報告

藤井 健史

MECCでは本年2月8日(土)に「生物多様性の場と機会と仕組みの創造」を目指して環境保全シンポジウムを開催しました。当日は記録的な大雪であったにもかかわらず会場が一杯になるほどの参加者がありました。

まず(独)森林総合研究所の岡部貴美子チーム長から基調講演「生物多様性保全を促進するために」を頂きました。生物多様性条約を締結して本年で20年、昨年は生物多様性地域連携促進法が制定され、生物多様性の重要性に対する認識が高まってきました。日本の生物多様性の現状と変化の説明から生物多様性を保持することの意義、つまり森林生態系が人間社会にもたらす恩恵(生態系サービス)についての解説があり、生物多様性の影響を強く受ける生態系の機能すなわち水質の保全、食物の供給、人の病気・害虫への制約、海の藻場への影響などについての説明がありました。地域ごとに生物多様性の恩恵を享受するためには地域ごとの特性を把握し、持続可能な地域連携の保全活動が必要であると強調されました。極めて明快で、具体的で示唆に富んだ講演でした。



引き続き生物多様性にかかわる活動をしているMECCの会員から東京西部(多摩地域)における環境の移り変わりについて今後の発表がありました。

- ① 坂井丈夫 東京西郊の環境変化
- ② 門司和夫 武蔵野の野鳥
- ③ 中西由美子 多摩地域の自然環境の変化
～植物～
- ④ 林 鷹央 東京の昆虫の今昔
- ⑤ 若林高子 生物多様性促進と武蔵野の自然
(野川中流域の自然)
- ⑥ 澄川 沃 生物多様性と井之頭池
- ⑦ 保坂公人 神田川流域の変遷

最初に武蔵野地域の土地利用の変遷についての説明があり、次に飛来する野鳥の変化について豊富な観察記録からの説明がありました。

土地利用の変化がもたらした武蔵野の植生の変化について説明があり、武蔵野地域の里山・緑地等を保全させていく活動の必要性を強調されました。

この地域に住む昆虫たちは当然周辺の植生に影響されます。その様子をきれいな写真を使つての説明がありました。

水辺の自然について、都市開発に伴い排水溝となろうとしていた野川の自然の再生・維持の話があり、ここでも日常の市民活動の必要性が強調されました。

水生生物の面からは、井之頭池の生態系が外来魚の繁殖により危機に瀕しており、その対策の一つとして本年二月に池の水をすべて抜く“かいぼり”が実施され、巨大な外来魚が多数捕獲されました。

昼食しながらの懇談後、12:50 頃バスに乗り養老川の上流の発電所に向かう。道路は養老溪谷の中腹を走っており、発電所の上部でバスを止め、上部にある貯水槽を視察。貯水槽からは新旧の導水管が発電所迄平行して敷設されており、上から見ると高低差約 50m でも身がすくむ。発電所迄下りたが、生憎の残雪のため滑り難儀。新しい建屋は水車式発電装置棟と制御装置棟があり、観光資源としての価値を意識してか、丸太小屋風の建屋となっている。

我々は水車式発電装置を視察したが、思っていたより小さい。これで規定の性能が出るのかちょっと疑問に思ったのは私だけか。ただ、貯水槽から余った

水を流すバイパスの滝は下から見ると迫力があり圧巻であった。

さらに 2km 上流の取水口へバスで移動。取水口はオーバーフロー型のダム横にあり、オイルフェンスがあるため分かりにくかったが水門を何とか確認。

その後、栗又の滝を見学する予定であったが、雪の影響で見学路が閉鎖されていたため。見晴高台より見学した。

地元の物産センターで女性陣等の買い物をして 15:00 現地出発。途中混んでいたが何とか 17:50 に三鷹駅北口到着。有意義なバス研修及び視察を無事終了。

最後に今回お世話になった大多喜町水道課 2 人の方々、EC 千葉の 2 人の方々に厚く御礼申し上げます。

会員活動報告：エコ・クッキング講座の開催

林家 カレー子

武蔵野市の市民活動グループであるむさしのエコ・アップ協議会の副会長として、エコ・クッキング講座を開催いたしました。当活動は協議会の平成 25 年度事業計画の一環として行われたもので、おかげさまで平成 26 年 2 月 26 日の講座まで延べ 4 回の講座を開催し、総参加者数も約百人を超えて盛況のうちに本年度の活動計画を終了させることができました。

12 月 12 日に行った第 2 回の講座では、当 MEC C 理事の昆野さん、望月さんも参加され、慣れない包丁を片手にロールキャベツ他の料理に挑戦されていました。

「エコ・クッキング講座」開催の背景は、日本のエネルギー自給率が 4% で、食糧の自給率がカロリーベースでみると 40% 程度と先進国中で最低であるにも関わらず、60% を輸入しながら全体からみた食品ロスが 30% もあるという現実があります。この事実を考えると真剣に削減することが急務であると考え、より多くの方々にこの問題を考えていただくとうと企画したものです。

この講座で学習すべき注意点や手法は、資源消費の削減とごみの減量をはかる 3 R 活動より、一番大切なリデュースに主眼を置いたもので「食材は、余分に買わない」、「余分に作らない」・「食材は残さず使い切り、食べ残しはしない」、「不要部分は、洗う前に取り除く（水にぬらさない）」、



省エネへの配慮として「調理器具（鍋、釜、フライパン等）を加熱する前に外部の水滴をふき取る。調理器具、食器などの内外の汚れは、布きれ、紙などでふき取ることで下水への負担を減らす。仕上げに蛇口の水を使用するときは、余分な水を流さないよう鉛筆の太さ程度に水流を減らす。などを実践することです。

またエコ・クッキング実習前に簡単な環境問題についての講習を行い、地球は稀にみる奇跡の星、美しく自然の恵みに満ちた星ですが、人類があまりに短期間に負荷をかけ過ぎて、環境が悪化してしまったこと。そのために人類の一員として私たちが実行すべき事項を学習していただきました。

今後においてもこのような市民レベルでの環境問題への取り組みは、環境カウンセラーとしての重要な役割と考え、継続的に行っていこうと考えております

会員活動報告：東京都国分寺市環境シンポジウム講演

一條 美智子

2月1日、「第九回環境シンポジウム」が国分寺市主催で開催され、「私もできる手軽な省エネ」を題材に小講演お受けしました。一般の方々の参加が予測され、より解り易く身近に取り組める内容でとの要望から「聞いた」だけにならない様具体的な内容で編集し、「これなら自分たちにもできる」「もったいない」や「節約できること」が意外に身近に少なくないに気づける内容に終始しました。

なかなか削減できない家庭でのCO₂。消費エネルギー全体から見れば僅かかもしれませんが毎日の暮らしの中で、継続的に多く人が関ればまさに「塵も積もれば山となる」のことわざ通り結果が期待できます。

昨今、環境にかかわる内容、中でも省エネルギーの必要性は多方面で多岐にわたり取り上げられています。恐らく大半の方が、関連した内容を聞いたことがある、すでに知っているというのが現状と感じます。にもかかわらず、日々実際に省エネへの取り組みはどうかとの視点からすると大きな差があるのは否めません。知っている実践するとはかなりの距離間があるようです。

なんとか省エネ行動への意欲の喚起を促し、早速取り組んでみよう、今から

日々の生活に実行動として取り入れてみようと繋げたいと考えています。現状を変えていくためには、一人一人が自分のこととして捉える。省エネルギーの必要を理解することに加え、経済節減効果や長く続けられるような身近な取り組み方法に気づく。環境問題が自分に直接関係ない。やれそうな人がやればいい。自分一人が行動するか否なんてちっぽけなことでは何の結果にも響かない。といった他力本願な思い違いに気づくことは大切です。当たり前のこととして自然に省エネ行動が定着し更に、周りの人を取り込み行動の輪を広げて欲しいと願っています。

今回、短い時間であったにもかかわらず、多少盛りだくさんの内容に傾倒した反省がありますが、肩の力を抜いて耳を傾けていただいたように思います。



.....

編集後記：「MECC だより」34号をお届けします。今号は各報告の活動実施日が2月に集中したため、原稿締切りまでの期間が短く、執筆者の方々には相当ご無理をお願いしました。紙面を通じて改めてお礼申し上げます。後半2件の報告は、環境カウンセラーの市民部門で活躍されている会員の活動報告です。皆様の身近なところで活動する様子を見ていただければ幸いです。（望月）

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒187-0045 小平市学園西町1-24-3 川真田 直之
TEL：042-332-5152
ホームページ：<http://www.mecc.or.jp/>
編集者：望月 眞